

第1回 浜松市教育研究会 ブロック別研修会報告

国語 研究部

ブロック担当 内山 陽介

1 日 時 令和5年5月24日(水)

2 会 場 浜松市立江西中学校

3 成果と課題

(1) 運営方法

授業担当学年ごとに小グループを組み、グループ協議を行った。また、グループには経験年数10年以上のベテランから5年未満の若手までを偏りのないように配置し、ベテランと若手が相互に相談したり助言しあったりできる環境を目指した。なお、このグループは通年とし、第2回市教研では今回検討した内容の実践報告をそれぞれのグループで行う予定である。

(2) 会 場・駐車場

ブロック担当の所属校である江西中学校を会場に研修を行った。駐車スペースに不安があったため、参加者には乗り合いでの参加をお願いした。解散時の混雑が予想されたが、事前連絡のおかげで大きな混雑はなくスムーズに解散できた。

(3) グループ協議

国語科における資質・能力＝「言葉の力」を身に付けられるような授業に迫るための視点(重点課題)として「子供たちが主体的に学びを調整できる場面を設定する」を設定し、グループ協議を行った。グループを授業担当学年ごとに編成するだけでなく、経験年数の偏りを抑え4～6名程度にすることで若手からもベテランからも話がしやすい環境を目指した。

グループ協議では、最初に立てた目標がどこまで達成できているのか、単元の途中で自分の学習を振り返ることが大切だという意見が出た。そうすることで、子どもたち自身が、学習計画を見直し、修正することができ、主体的な学習につながる。また、出来上がった作品を観点を明確にして友達と交流することにより、自分の作品が目標に迫っているものか確認したり、級友の考えや助言を自分の学習に役立てたりすることができるという意見も出た。グループ協議により、「学びの調整」についての具体的な実践案を考えたり、理解を深めたりすることができた。

